

図 19-4 仕事要求度-コントロール-社会的支援モデル

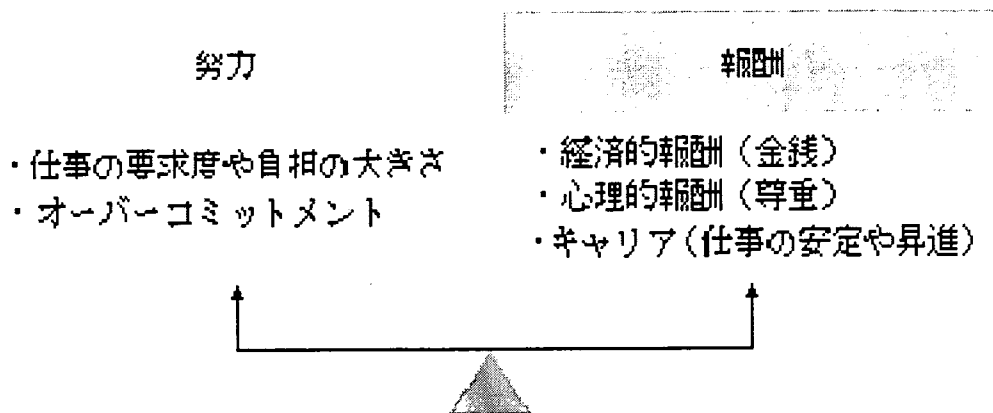


図 19-5 努力-報酬不均衡モデル

(1) 医師のストレス診断

職業性ストレス簡易調査票をもとに医師の職業性ストレスの状況を診断した(質問項目のQ32~35)。

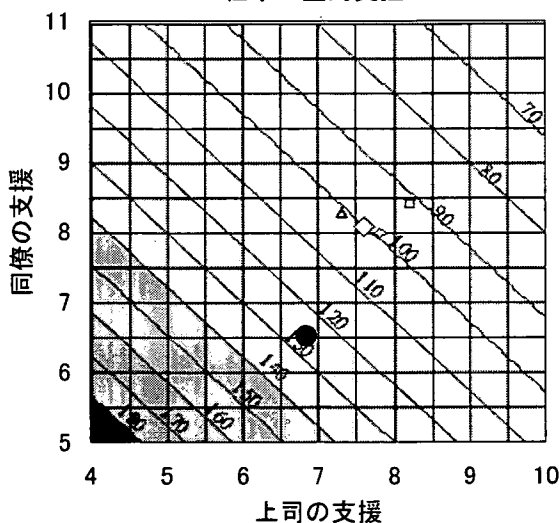
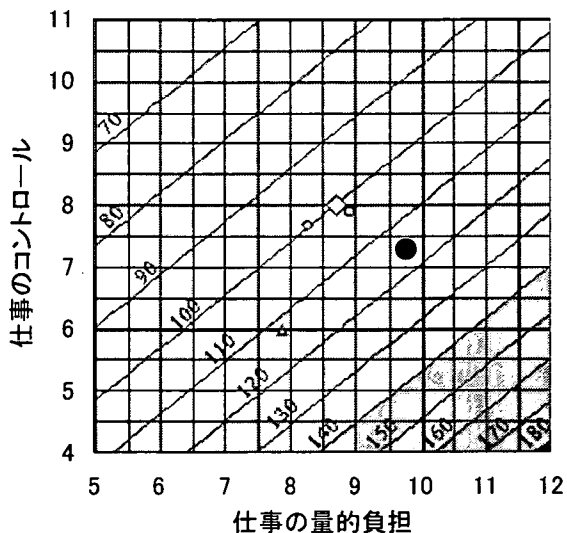
各回答項目を、1) 量的負荷を感じているか、2) 仕事をコントロール出来ているか、3) 上司の支援が得られているか、4) 同僚の支援が得られているかという4つのクラスターの分類し、集計を行った。

これらの集計値をもとに、平成7~11年度労働省「作業関連疾患の予防に関する研究」により開発された判定図で医師のストレス状況を判定したものが以下の図である。

全体的な傾向として、男女ともそれほど違いは見られない。仕事の量的負担とコントロールに関する分析では、全国平均を100として、115となっており、業務によるストレスを感じている。特に仕事の量的負担感がストレスを増加させていると分析することが出来る。また、上司・同僚からの支援に関しても十分な支援が得られずストレスを感じていると考えられる。特に、同僚からの支援が不足していると感じていると分析できる。全体の健康リスクが男性143、女性135となっており、他職種の平均値と比較し、高い結果となっている。

仕事のストレス判定図(簡易版調査票用)

男性用



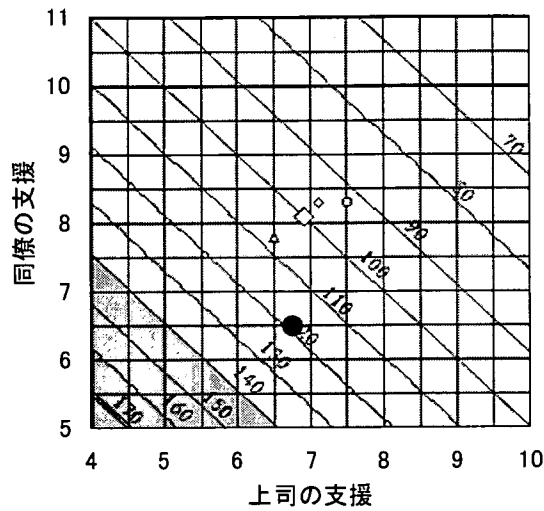
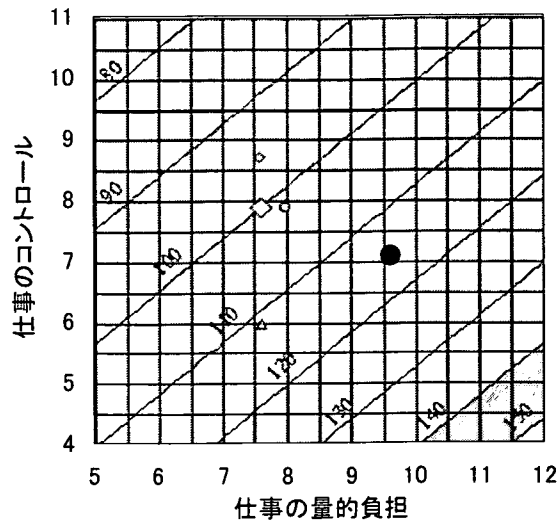
**参考値**

◇全国平均 □管理職 ○専門職 ◇事務職 △現業職

職場名	医師(男性)	人数	765名
尺度	平均点数	健康リスク(全国平均=100とした場合)	
量的負荷	9.79	量-コントロール判定図	総合健康リスク (A)x(B)/100
コントロール	7.28	(A)	
上司の支援	6.8467	職場の支援判定図	
同僚の支援	6.5113	(B)	
			143

女性用

仕事のストレス判定図(簡易版調査票用)



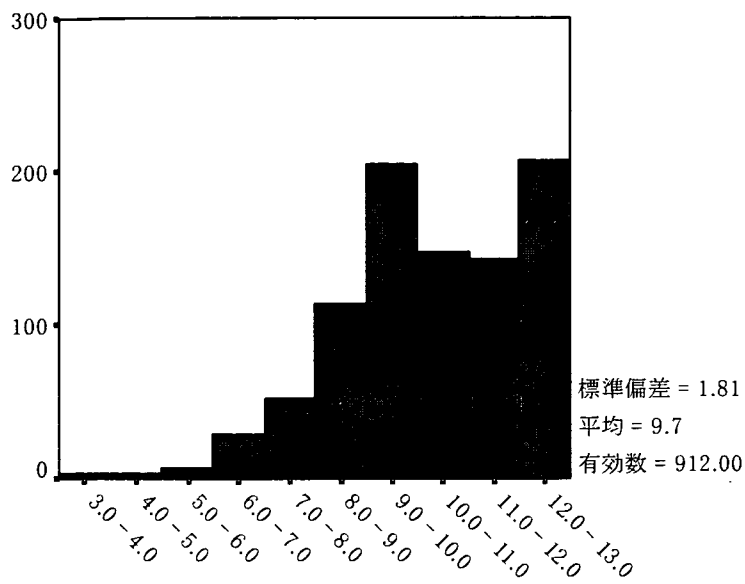
参考値  
 ◇全国平均 ○専門職 ◇事務職 △現業職

職場名	医師(女性)	人数	169名
尺度	平均点数	健康リスク(全国平均=100とした場合)	
量的負担	9.63	量=コントロール判定図	総合健康リスク (A)x(B)/100
コントロール	7.07	(A)	
上司の支援	6.7586	職場の支援判定図	135
同僚の支援	6.4868	(B)	

(2) ストレスと他の要因との関係

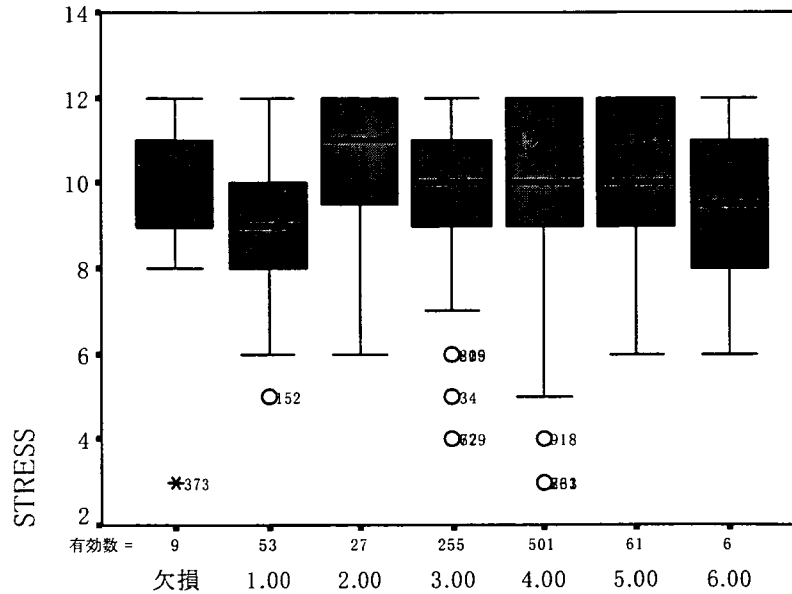
前節において、医師のストレスの状況が分析されたが、ここでは、医師のストレスの規定要因や環境の影響について考察する。ここでは被説明変数として、量的負担指数(Q32の1-3の項目を、回答1を4点、2を3点、3を2点、4を1点として換算し、集計したもの)

量的負担指数の全体の分布は以下のようになっている。平均値は9.7である。



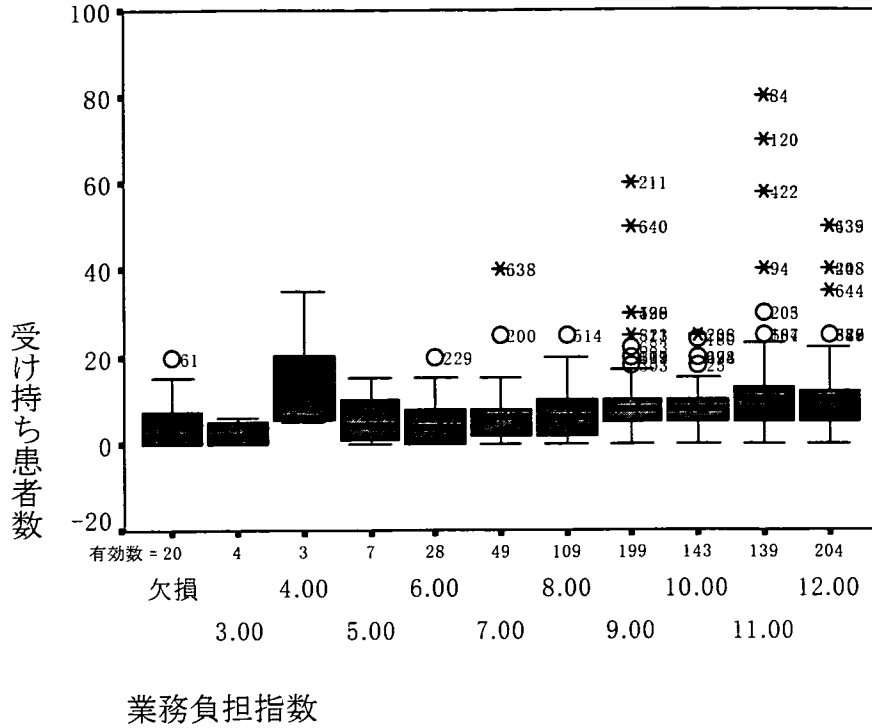
量的負担指数の分布

役職とストレスの関係は以下の図のようになっている。前期研修医が最も低く、後期研修医がもっとも高くなっている。ただし、後期研修医はサンプルが少ないため有意な差とはなっていない。スタッフ医師、管理職医師の間に大きな差はないが、管理職医師の方が分布範囲が広い。



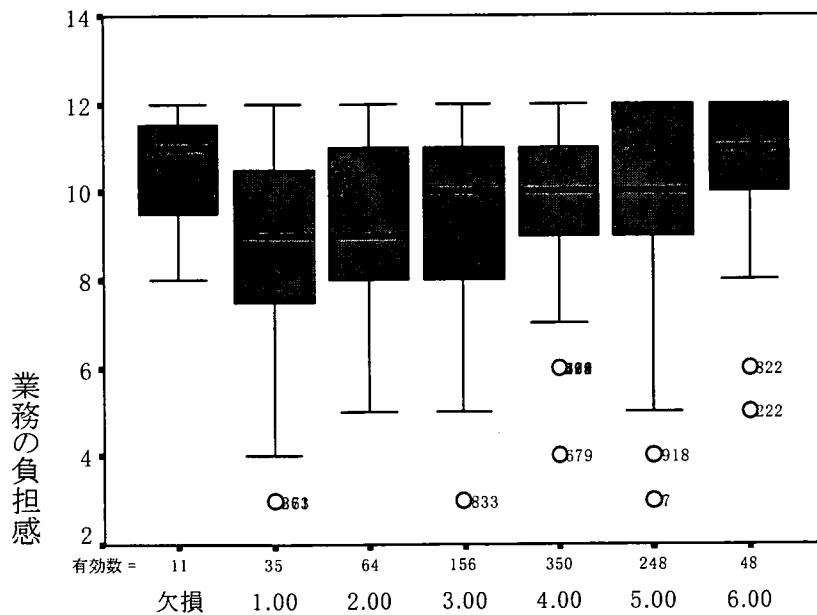
役職

受け持ち患者数と業務負担感の間には緩やかな正の相関が見られる (相関係数=0.305)。



・ 問 17 (現在、あなたが携わる業務のうち、およそ何%が医師の業務ではないと思いますか?) の回答状況とストレス指数

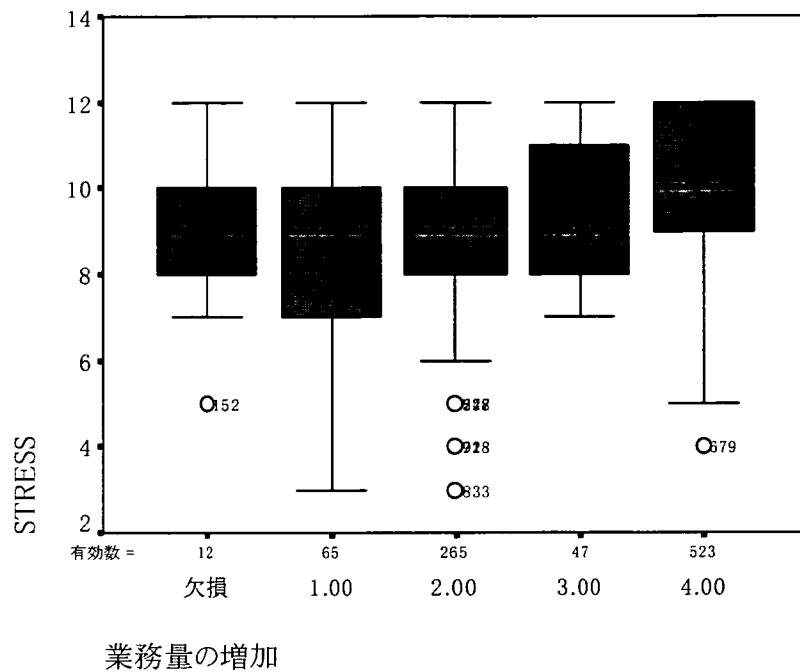
医師が従事する必要がないと考えている業務に従事している割合が高いほどストレスは高くなっている。



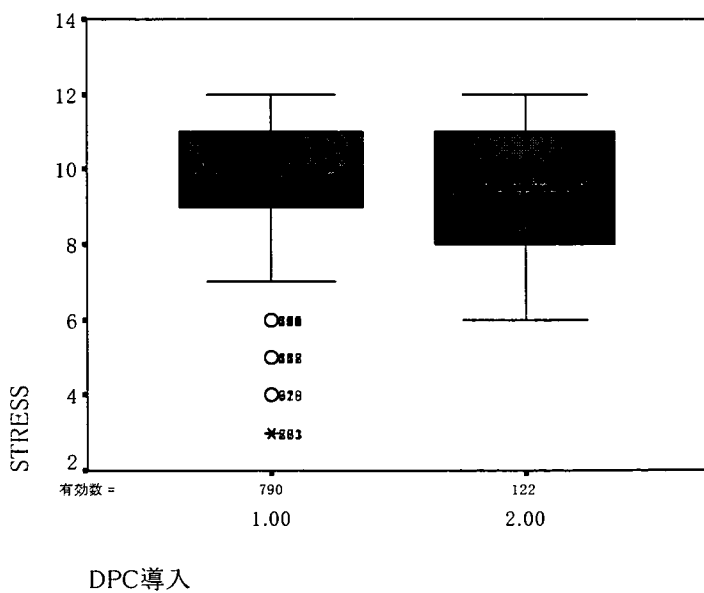
Q17

ストレスと業務量の増加に関しては、業務量の増加を直接診療と直接診療以外の業務で感じて

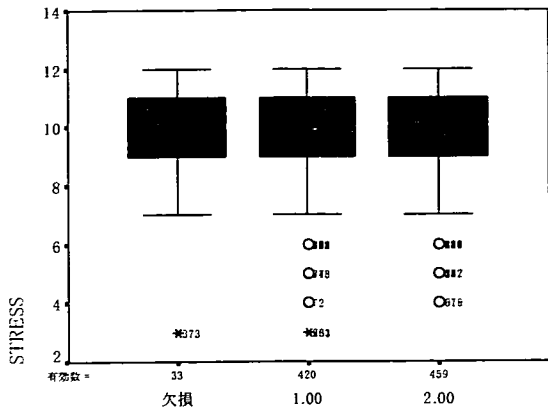
いる人ほどストレスの度合いが高いことがわかる。



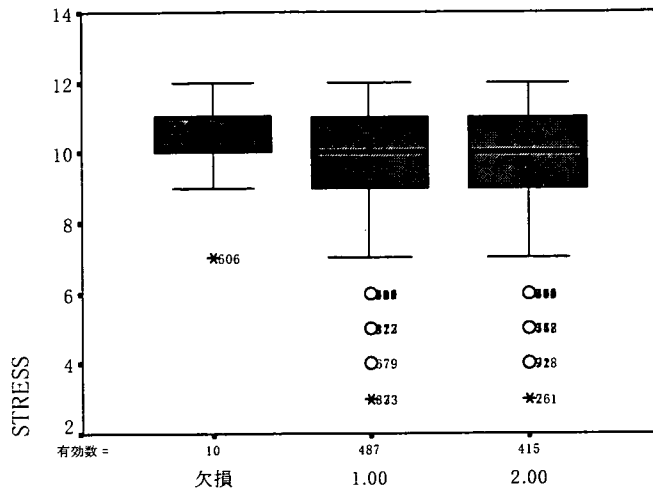
DPC導入病院方がストレスが高くなっている。これはDPCの影響というよりは、DPCを導入している急性期病院の方が、業務が多忙な病院が多いことが理由と考えられる。



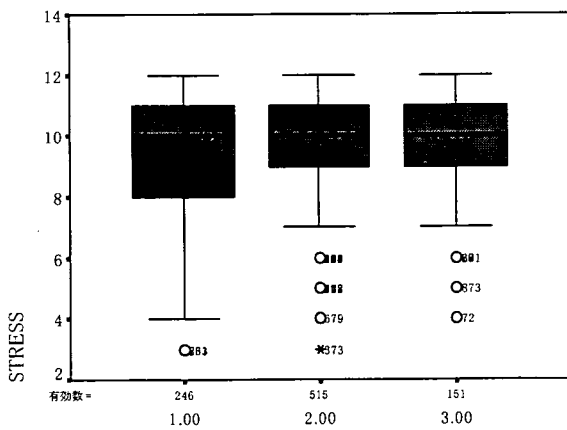
病棟秘書の導入は、ストレスの軽減という結果には結びついていない。これもDPC導入病院と同様の理由が背後にあると推測される。



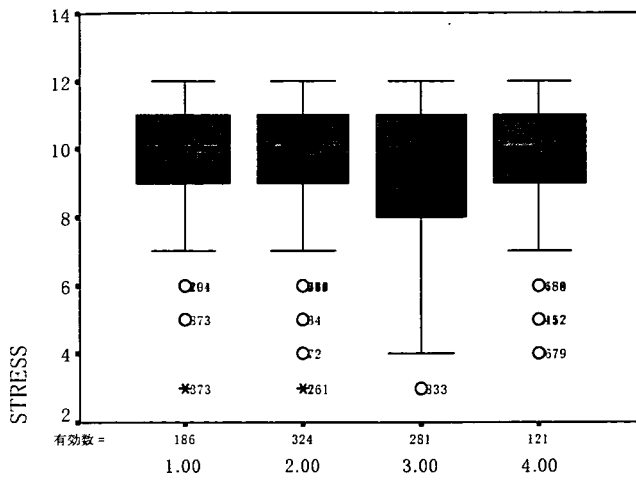
病棟秘書



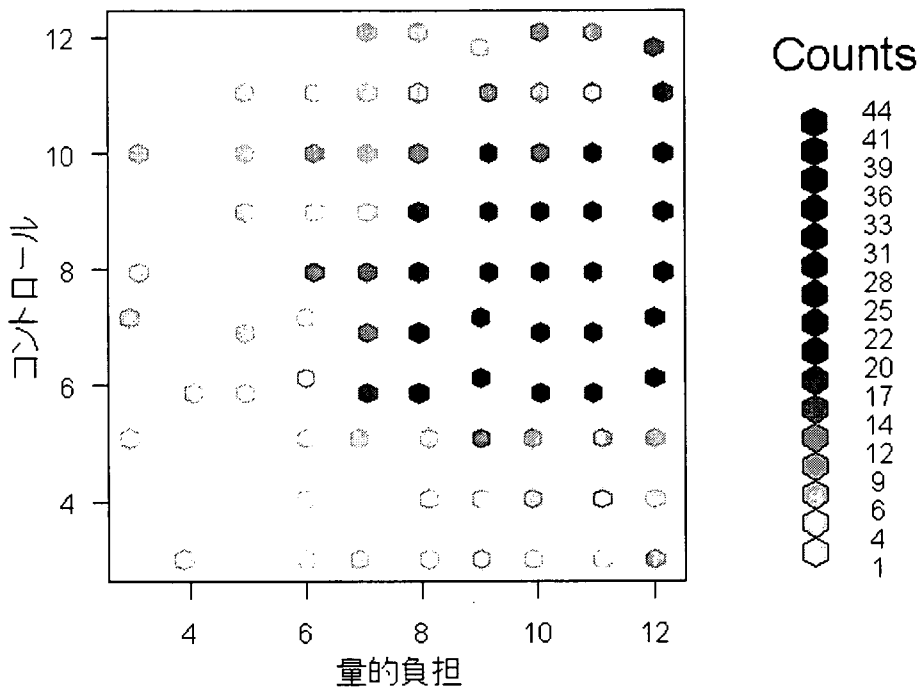
訴訟



病床規模



一人あたり退院数



量的負担と仕事に対するコントロールの指標は、量的に負担が多い人の頻度が高い。



## 5. 単純集計

以下が各項目集計内容である（一部の質問項目と自由記載欄を除く）。

### A. 先生ご自身についてお聞きします

問 1. 年齢

平均 41.9 歳

問 2. 性別

男性	女性
765 人 (82.2%)	166 人 (17.8%)

問 4. 診療科

1. 内科系 284 人
2. 外科系 320 人
3. 産婦人科 48 人
4. 小児科 55 人
5. 精神科 4 人
6. 麻酔科 45 人
7. 病理 9 人
8. 放射線科 28 人
9. その他 101 人

問 5. 勤務は常勤ですか ?

常勤	非常勤
916 人	11 人

問 6. 役職

1. 初期臨床研修医 53 人
2. 後期研修医 28 人
3. 管理職以外のスタッフ医師 257 人
4. 院長副院長以外の管理職（医長以上）513 人
5. 院長・副院長 63 人
6. その他 9 人

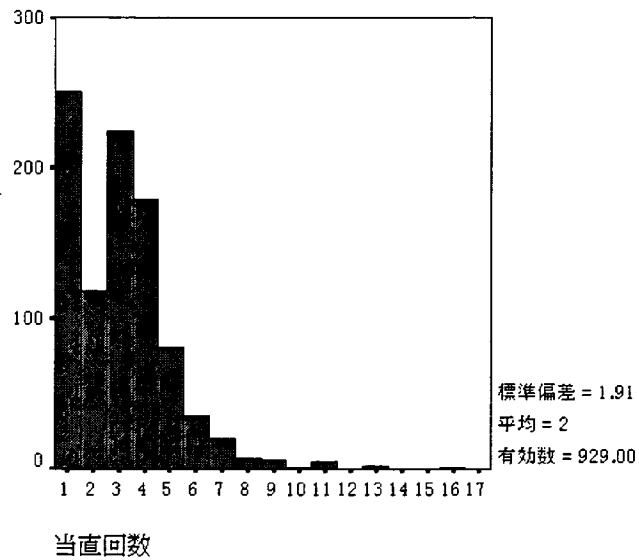
問 8. この病院には何年間、勤務されていますか？

平均 5.4 年

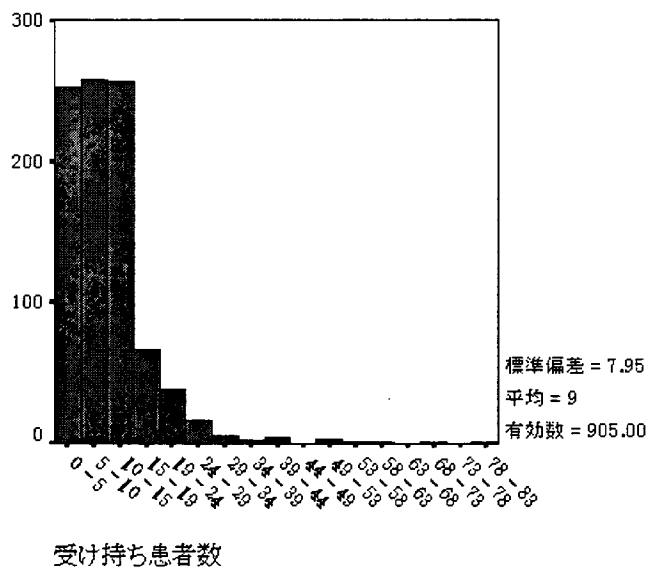
### B. 現在の診療についてお聞きします

問 9. 一ヶ月の当直は何回ですか？（過去半年くらいの平均）

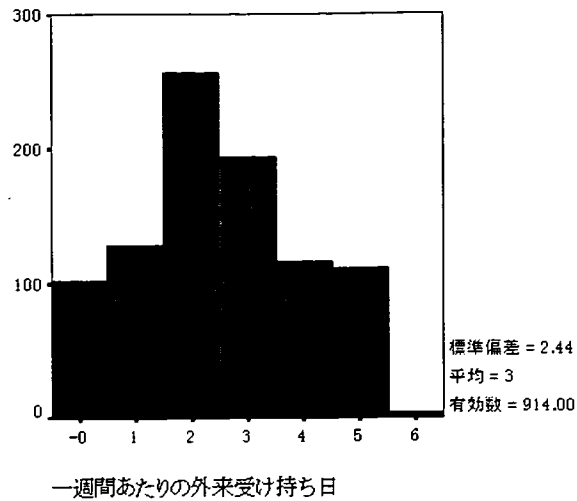
平均 2.1 回



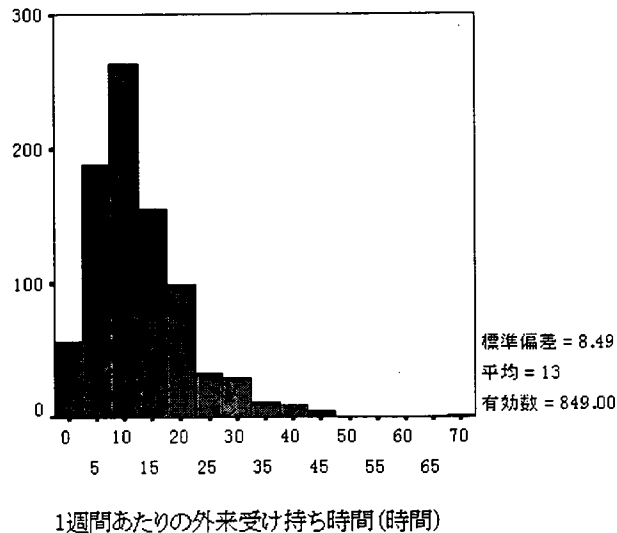
問 10. 入院中の受持ち患者は何人ですか？（過去半年くらいの平均）  
8.5 人



問 11. 外来を一週間当たり何日受け持っていますか？  
平均 2.5 日



合計何時間ですか? (過去半年くらいの平均)  
平均 12.5 時間



問 12. 手術をされていますか?

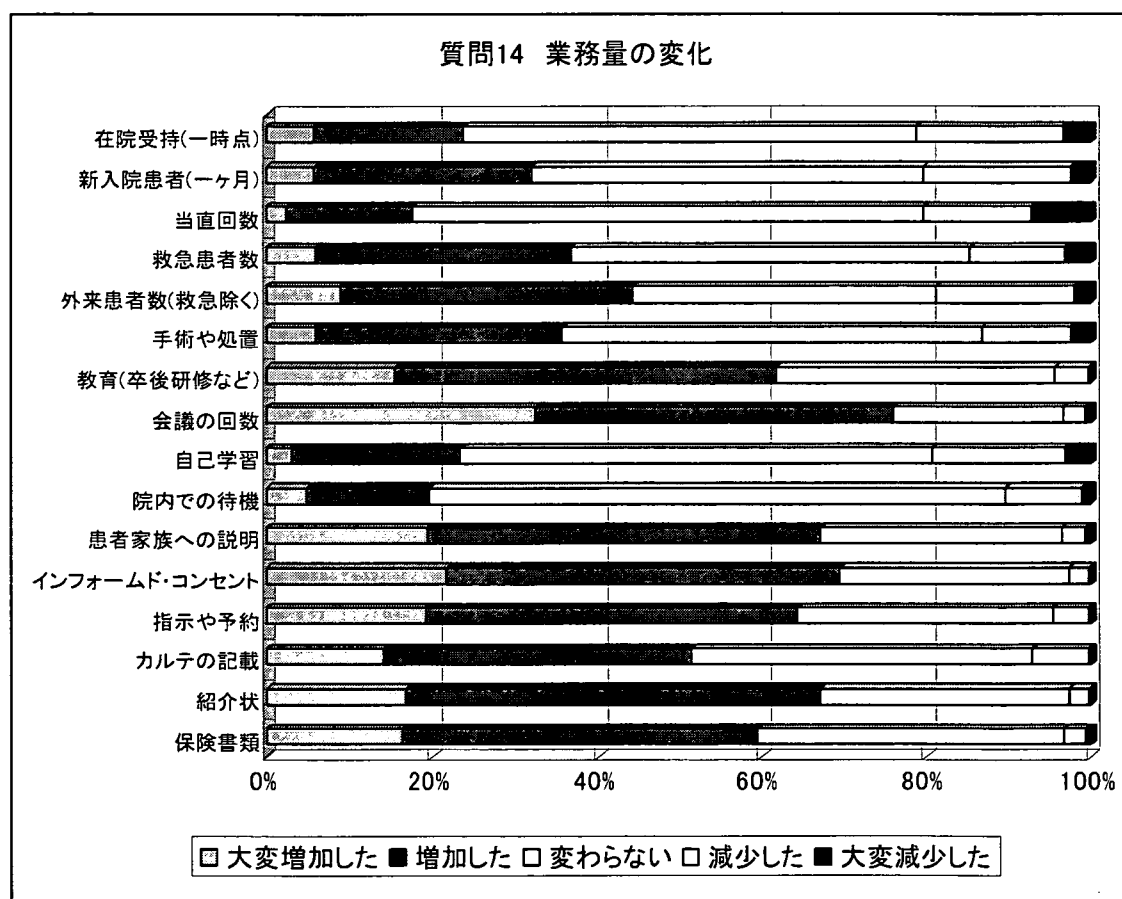
1. している 538 人
2. していない 387 人

C. 前ページB-問2で「1. はい」と答えた方のみ、業務量の変化についてお聞きします

問 14. 2003 年頃(4 年前)と比較して最近(半年程度)でどのように変化したと思われますか?  
下記項目以外に業務量に変化した項目があれば、下に追加記入してください。

1. 大変増加した
2. 増加した
3. 変わらない
4. 減少した
5. 大変減少した

	大変増加した	増加した	変わらない	減少した	大変減少した
在院受持(一時点)	19	60	182	59	11
新入院患者(一ヶ月)	19	87	158	59	8
当直回数	8	49	202	43	23
救急患者数	20	103	163	39	10
外来患者数(救急除く)	30	121	126	57	7
手術や処置	20	100	172	36	8
教育(卒後研修など)	53	160	117	14	1
会議の回数	116	156	74	10	2
自己学習	11	72	203	57	11
院内での待機	16	51	238	31	4
患者家族への説明	67	165	101	10	2
インフォームド・コンセ	75	166	96	8	1
指示や予約	67	156	108	15	1
カルテの記載	49	130	144	24	1
紹介状	58	176	105	8	1
保険書類	56	148	129	9	2



D. 全員の方に、現在の業務についてお聞きします

問 15. 現状の業務の負担、改善の必要性に関して、まず、負担改善が必要とお考えの業務について、追加があれば以下の 15 項目以降の枠に追加してください。次に「負担の程度」、「改善の必要性」について○を付けて下さい。

負担感

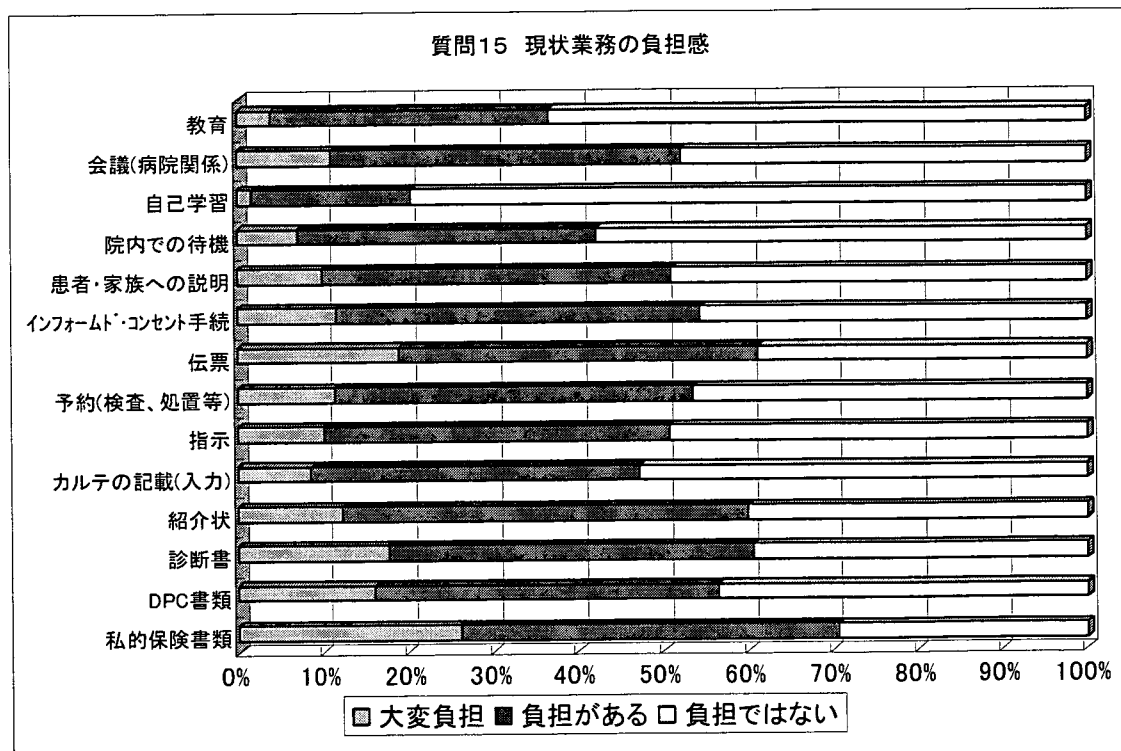
1. 大変負担
2. 負担がある

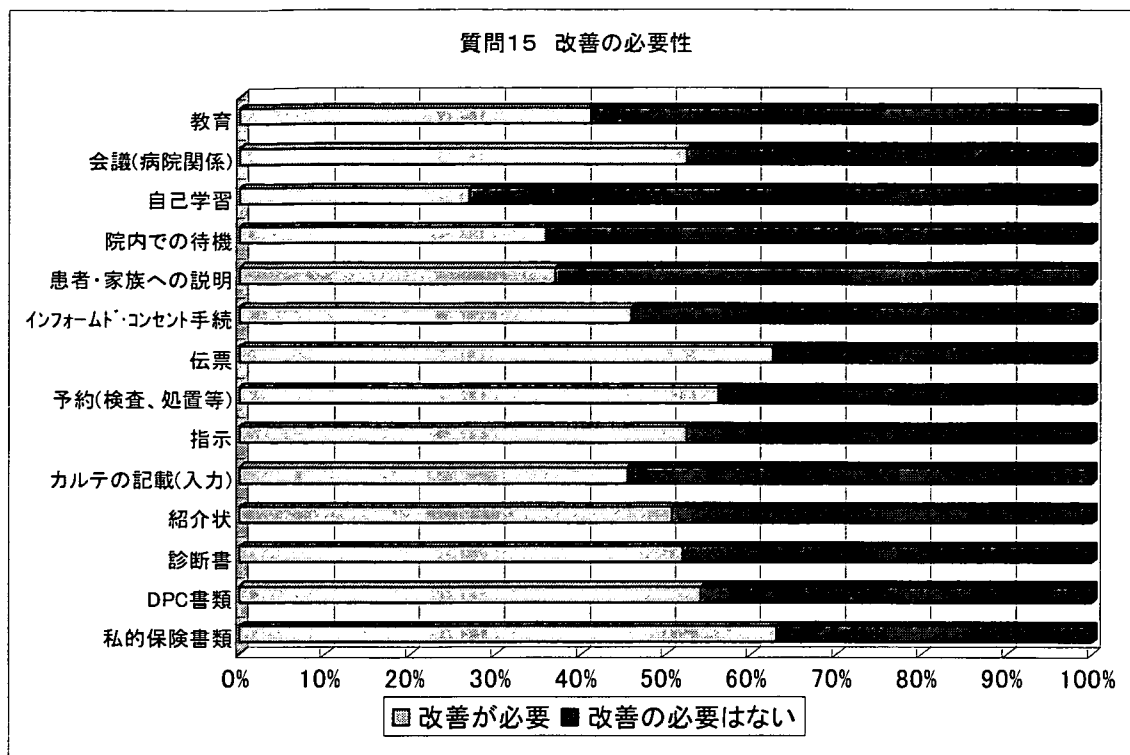
3. 負担ではない

改善

- 1. 改善が必要
- 2. 改善の必要はない

	負担感			改善の余地	
	大変負担	負担がある	負担ではない	改善が必要	い
教育	33	276	534	250	358
会議(病院関係)	95	352	408	326	295
自己学習	14	159	673	161	437
院内での待機	60	298	490	215	385
患者・家族への説明	86	353	421	223	379
インフォームド・コンセント手続	99	366	390	279	329
伝票	161	357	329	390	232
予約(検査、処置等)	98	356	396	344	268
指示	86	346	419	319	290
カルテの記載(入力)	72	332	452	278	332
紹介状	105	404	341	305	296
診断書	149	363	333	314	289
DPC書類	129	327	352	320	271
私的保険書類	219	370	246	388	227



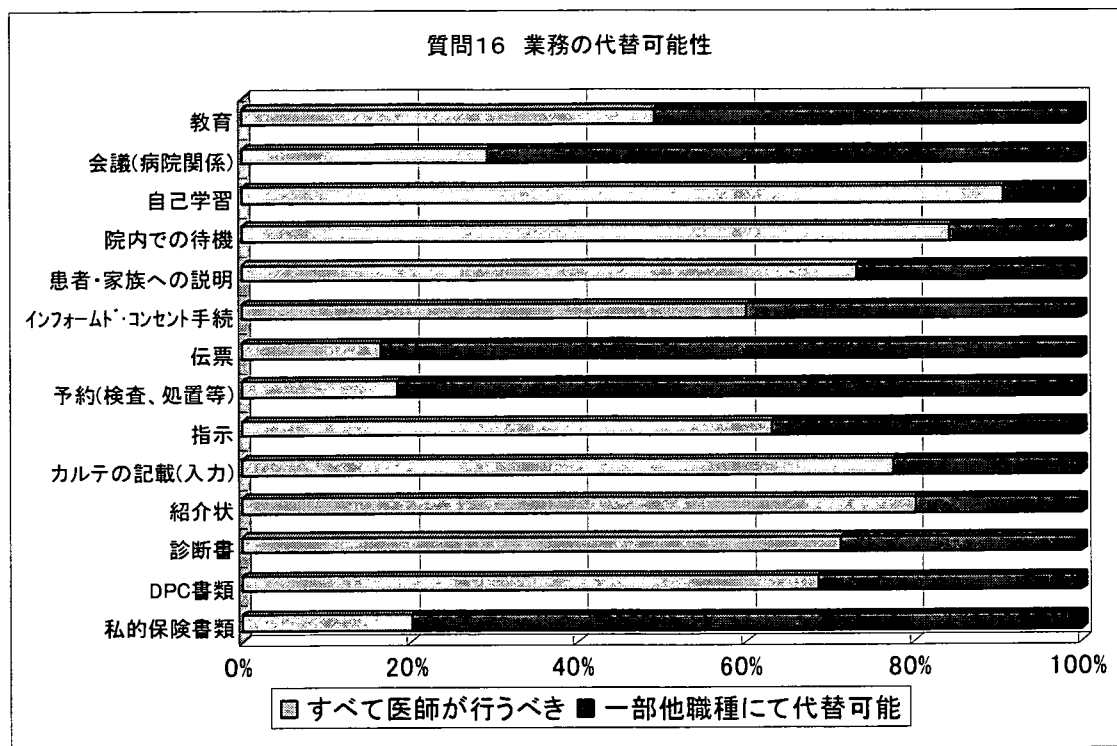


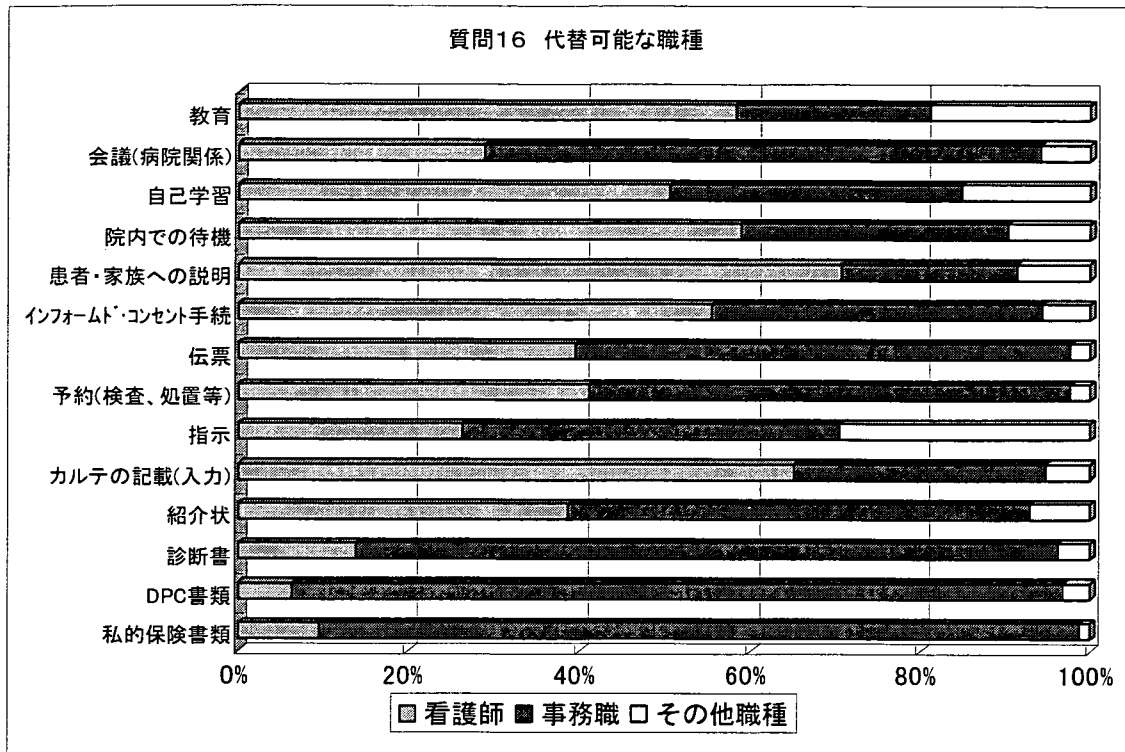
問 16. 医師の業務の代替可能性についてお聞きします  
 (上記質問で、追加項目があれば同様に追加してください)

2 と回答された方のみ

3. 全て医師が行うべき
4. 一部他職種にて
- どのような職種にて代替可能ですか？
1. 看護師
  2. 事務職
  3. その他

	代替可能性		代替可能な職種		
	すべて医師が行うべき	一部他職種にて代替可能	看護師	事務職	その他職種
教育	435	449	314	125	101
会議(病院関係)	255	621	221	503	45
自己学習	790	79	47	32	14
院内での待機	721	134	79	42	13
患者・家族への説明	654	240	199	58	24
インフォームド・コンセント手続	535	355	235	165	24
伝票	148	747	350	514	21
予約(検査、処置等)	166	735	363	500	20
指示	388	227	219	370	246
カルテの記載(入力)	695	201	149	68	12
紹介状	720	178	81	114	15
診断書	640	258	37	222	10
DPC書類	615	282	18	258	9
私的保険書類	176	695	67	634	9

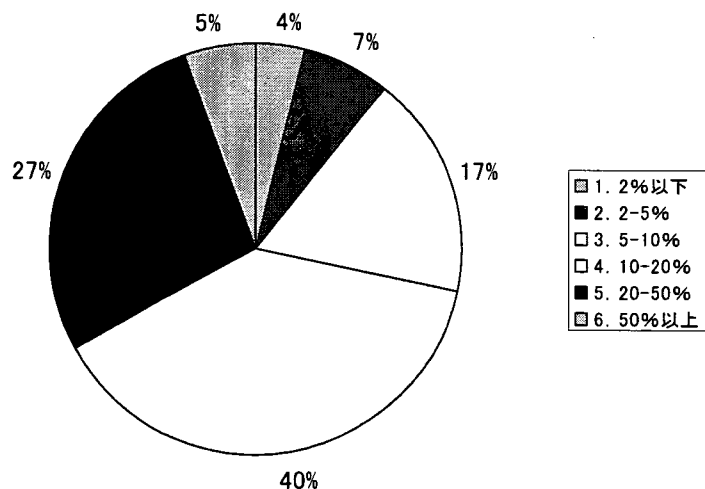




問 17. 現在、あなたが携わる業務のうち、およそ何%が医師の業務ではないと思いますか？

1. 2%以下 2. 2-5% 3. 5-10% 4. 10-20% 5. 20-50% 6. 50%以上

1	2	3	4	5	6
36人	64人	160人	355人	252人	50人

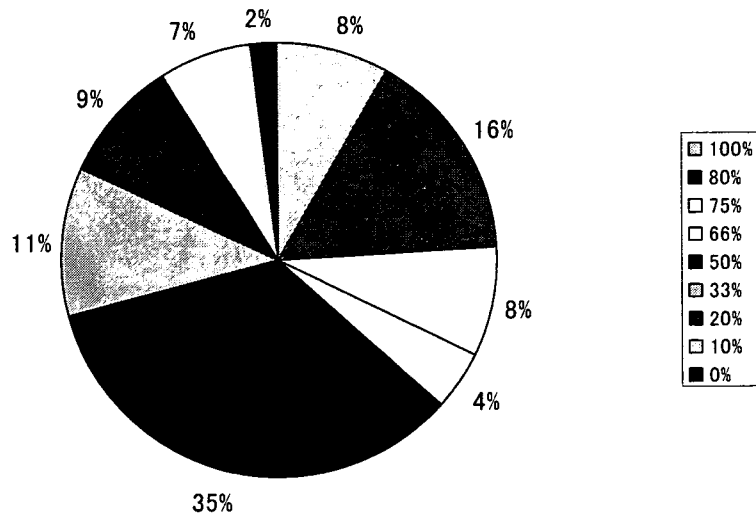


問 18. 上記（医師の業務ではないと思われる業務）のうち、どの程度が他職種にて代替可能と判断されますか？（機械やシステムなどで代替できるとされる部分を除いた業務についてご記入ください。）



1. 100% 2. 80% 3. 75% 4. 66% 5. 50% 6. 33% 7. 20% 8. 10% 9. 0%

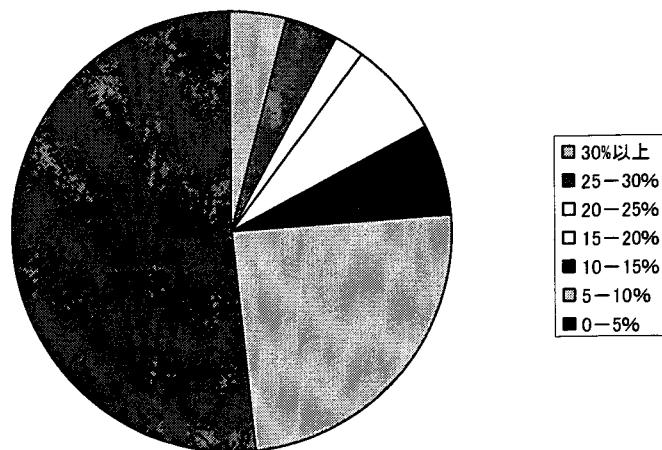
1	2	3	4	5	6	7	8	9
75人	144人	73人	39人	312人	99人	83人	63人	18人



他職種で代替可能と考えられる業務の割合

		問18									合計
		100%	80%	75%	66%	50%	33%	20%	10%	0%	
問17	1. 2%以下	1	0.8			3		1	10	10	33
	2. 2-5%	3.5	10	9		17	4	3	5	5	61
	3. 5-10%	7.5	25	8	2	58	14	10	24	2	157
	4. 10-20%	15	57	31	15	135	23	48	18		354
	5. 20-50%	35	37	20	18	83	54	18	5	1	250
	6. 50%以上	75	14	5	4	16	3	2	1		49
合計		75	144	73	39	312	98	82	63	18	904

問17を（1. 2%以下=1%、2. 2-5%=3.5%、3. 5-10%=7.5%、4. 10-20%=15%、5. 20-50%=35%、6. 50%以上=75%）として計算した他職種で代替可能な業務の割合

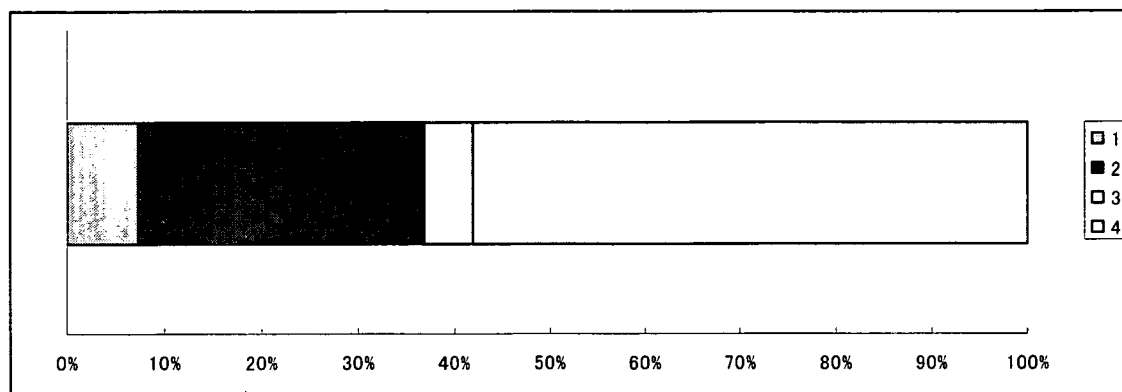


過半数の人が他職種で代替できる業務量は、5%以下と考えている。

問 19. 医師の業務について

1. 診療も診療以外の負担も増加していない
2. 診療は増加していないが、診療以外の負担が増加している
3. 診療は増加しているが、診療以外の負担は増加していない
4. 診療も増加しているし、診療以外の負担も増加している

1	2	3	4
68 人	271 人	47 人	532 人



問 20. 直接診療以外の業務について

1. 医師は出来る限り直接診療のみを実施すべきである
2. 医師も多少は診療以外の業務を実施すべきである
3. 医師も進んで診療以外の業務を実施すべきである

1	2	3
345 人	529 人	47 人

問 21. 患者さんの苦情や説明の要望について

1. 最近苦情が多く、説明を求めすぎる
2. 最近、事故などが増加し、苦情や説明の要求は仕方ないと思う
3. 以前と変わらない

1	2	3
319 人	373 人	204 人

問 22. 事故や医療安全について

1. 事故や訴訟が気になる
2. 事故や訴訟は気にならない

1	2
897 人	31 人

問 23. 最近ガイドラインや保険による制限で診療の裁量権が減少しているという意見について

1. そう思う      2. そうは思わない      3. 分からない

1	2	3
532 人	247 人	146 人

問 24. 看護師について

1. 最近、業務負担が増加していると思う      2. 不変と思う  
3. 減少していると思う

1	2	3
621 人	233 人	59 人

問 25. 看護師の業務についてどうお感じですか

1. 看護師以外でも出来る業務を抱えて忙しくしている  
2. 配置人数と業務が一致している  
3. もう少し医師の業務を代替できるはずだ

1	2	3
718 人	62 人	110 人

問 26. 医師と他職種の確保について

1. 法律を変更してでも他職種に権限を与え、仕事を担ってもらうべきだ  
2. 現医師法の下では、これまで通りの役割で業務をすべきだ

1	2
612 人	275 人

問 27. 院内の電子化（ITの整備、オーダーリングの導入）について（複数回答可）

1. 医師の業務の効率化が期待できる      2. 医師の業務は変わらない  
3. 医師のオーダーが必須なので精神的負担が増える  
4. 医師の作業が増える

1	2	3	4
357 人	139 人	250 人	517 人

問 28. 医師の離職の現状について（複数回答可）

1. 周りの医師でも仕事が増加して退職した人がある  
2. 辞めたいと言っている人がある      3. あまり離職の話は聞かない

1	2	3
459 人	544 人	180 人

問 29. 医師の負担が増加している原因、もしくは影響が大きいと思われる順に各項目に順番を

付けてください。

1. 事故 ( ) 位

1	2	3	4	5	6
232 人	176 人	178 人	138 人	90 人	23 人

2. インフォームド・コンセント ( ) 位

1	2	3	4	5	6
145 人	216 人	186 人	163 人	100 人	9 人

3. 経営強化 ( ) 位

1	2	3	4	5	6
168 人	172 人	173 人	140 人	145 人	14 人

4. 新研修医制度 ( ) 位

1	2	3	4	5	6
141 人	143 人	108 人	154 人	231 人	30 人

5. 保険書類の煩雑化 ( ) 位

1	2	3	4	5	6
93 人	140 人	169 人	179 人	183 人	28 人

